

# ==宇電懇ニュース No.115==

2005年11月21日

宇電懇事務局（大阪府立大学）発行

宇電懇ニュース No.115 をお届けします。この号は ryunet による電子メール配信と宇電懇 web ページ(<http://www.nro.nao.ac.jp/udenkou/>)掲載でお伝えします。

---

## 目次

	ページ
I. 拡大宇電懇運営委員会報告	1
II. スペース VLBI, VSOP から VSOP-2 時代へ (平林 久)	2
III. 事務局からのお知らせ	4

---

## I. 拡大宇電懇運営委員会報告

日時：2005年10月7日 12:30-13:20

会場：日本天文学会秋季年会会場（札幌コンベンションセンター）G会場

参加人数：約 35 名

### 0. 議長認定

石黒委員長を議長として選出した。

### 1. 活動報告（米倉 覚則）

(1) 会員数：365名、ryunet 登録者数：322名 (2005年10月4日現在)

(2) 2004年12月25-27日に、理論懇主催、光天連、宇電懇、V懇、高宇連、CRC 共催で開催した「次世代天文学-大型観測装置とサイエンス-」の集録経費として、5万円を支出した。

### 2. ALMA 計画進捗報告（長谷川 哲夫）

11/8, 9: ACA (Atacama Compact Array) アンテナ CDR (Critical Design Review, 最終設計審査)+ MRR (Manufacturing Readiness Review) (1)

11/10, 11: ACA システム PDR (Preliminary Design Review, 予備設計審査)

Band-4, 8: 着々と開発が進んでいる

拡大電波専門委員会を、12月21日の午後に三鷹にて開催予定。

### 3. VSOP-2 提案に関する報告（平林 久）

(II 参照)。

### 4. 議題：宇電懇シンポジウム企画案（河野 孝太郎）

宇電懇シンポジウムとして、SKA (Square Kilometer Array) に関するワークショップを 2006年1-3月に野辺山あるいは三鷹において開催する旨の提案があった（河野氏欠席のため、事務局米倉が代理説明）。財源は確保済み（国立天文台電波天文分野研究会・ワークショップ）である。

議論の末、宇電懇シンポジウムとして開催する事に決定した。なお、詳細は ryunet 等を通じてアナウンスする。

## II. スペース VLBI, VSOP から VSOP-2 時代へ

平林 久

VSOP チームに代わりまして、  
宇宙研「はるか」プロジェクト マネジャー  
次期スペース VLBI WG 主査

### (1) VSOP-2 の提案をしました

何度か宇電懇で報告をしてきましたが、宇宙研の第25号科学衛星の提案受付に対して、VSOP-2 提案を理学ミッションとして9月30日〔締切日〕付けでおこないません。

今後は、NeXT と一緒に宇宙理学委員会の評価を受けて、12月中の一つに絞られることになりました。更にもう一つの工学実験衛星計画 Solar-Sail は宇宙工学委員会で評価を受けます。この先は、さまざまな現実を勘案して宇宙研が候補の一つに絞って、2007年 PM 開発スタートのための概算要求に進みます。このような状況から、VSOP-2 では、2012年1-2月の衛星打ち上げを提案しています。

感度と解像度で10倍、観測周波数は10倍のミリ波帯までをモットーに装置を強力にし、科学面を磨いてきた提案です。

「はるか」を中心にすえた VSOP 計画をスタートさせるときから、宇電懇メンバーが重要な役割を占めました。VSOP 計画の成功と経験をもとにした強力な科学ミッションです。このミッションを支える若い世代の参加をおおいに期待します。

今後よろしくお願いたします。

### (2) 国際 VSOP チームが IAA Lorel 賞を受賞しました

スペースVLBI（超長基線干渉計）を世界最初に実現したわたしたち VSOP（VLBI Space Observatory Programme）チームが、10月16日から福岡で開催されている IAA（国際宇宙航行アカデミー：International Academy of Astronautics）の2005年チーム榮譽賞（Laurels for Team Achievement Award）を受賞しました。

⇒ <http://www.isas.jaxa.jp/j/snews/2005/1014.shtml>

MIR, Space Shuttle, SOHO, HST などと並んで VSOP は IAA Laurel 賞を受賞したミッションとして記録に残る事になりました。

「はるか」チームの懸命の力をベースに、宇宙研と天文台、世界の仲間が強い協力で結ばれておこなわれた VSOP 計画です。思えば、さまざまな苦勞を乗り越えてよくここまでこられたものだと、深い感慨を禁じえません。

15日夜は、それまでに福岡に集まった VSOP 国際チームで、夕食会を囲みました。16

日の総会での平林の 45 分間の受賞講演は、無事に勤めました。引き続き夕食会で授賞式がおこなわれました。Jauncey, Gurvits, Fomalont, Romney, Smith, Dougherty (representing Dewdney), Kobayashi, Hirose, Orii, Miyoshi, Inoue, Murata さん方, Hirabayashi. という 13 人もが受賞のために出席しました。ここが僕らの国際チームのいいところなのでしょう。廣澤先生がお礼の挨拶をされました。

宇宙電波懇談会は野辺山の実現を合言葉に始まったコミュニティでした。田中、赤羽、森本先生のもとで、若く、先進的で、未来を志向したコミュニティを合成して、突き進んできました。野辺山からスバルに、VSOP に、VERA に、さまざまうねりをもって、そして今では ALMA を実現する高波を生み出しました。

このようななかで、「はるか」と VSOP は生まれてきました。宇宙電波懇談会の風土が、地球上にスペース VLBI の芽を育て、その後もさまざまな支援を頂きました。ありがとうございました。

わたしたちはまた、2012 年初打ち上げをめざして、さらに強力にした VSOP-2 を宇宙研に提案しました。この暮れまでには方向が決まる事になっています。

そのようななかでの VSOP の Laurel 賞の受賞でした。

宇電懇の進化のうねりの中の出来事として、一緒に喜んでいただけると幸いです。

### (3) さようなら、「はるか」

もうひとつのニュースは、「はるか」運用終了のお知らせです。

2003 年以來の姿勢系のトラブルで、モニターを続け立ち上げをねらってきたのですが、すでに打ち上げ後 8 年を経過し、ミッションライフの 3 年を十分に経過したことから、11 月に運用中止とすることになりました。

この間、宇宙研、天文台、大学関係者のながい運用協力がありました。

ここに謹んでお知らせいたします。

なお、「はるか」は、ギリシャ神話のアリエルそのままに、金色のアンテナに光を浴びて、長楕円軌道を飛び続けることとなります。

### III. 事務局からのお知らせ

#### (1) 次回拡大宇電懇運営委員会の開催予定について

日本天文学会春季年会 (2006年3月27日-29日、和歌山大学) において、宇電懇総会を開催する予定です。奮ってご参加ください。

#### (2) 次期事務局募集中

次期 (任期：2006年4月1日-2008年3月31日) 事務局を募集中です。以下に規約を掲載いたしますので、「我こそは！」という機関の方は、ぜひご連絡ください。

#### 宇宙電波懇談会事務局規定

第1条：宇宙電波懇談会（以下、宇電懇）には事務局を置く。

第2条：(1)事務局は宇電懇会員の入退会の処理など宇電懇運営に関連する事務、会員に対する広報および会計管理を行う。

(2)事務局は宇電懇シンポジウムの開催に関連した事務を行う。

第3条：事務局の担当期間は、西暦偶数年4月1日から2年間とする。

第4条：事務局は、原則として研究活動の根拠地が地理的に近接した、複数の宇電懇会員からなる1つのグループが担当する。

第5条：次期事務局は、担当期間の開始より3ヶ月以上前に、その時点での運営委員長が決定する。次期事務局は、担当期間開始前までに現事務局によって会員に告知される。

第6条：本規定の改訂は、運営委員会および総会での議決を必要とする。

#### 宇宙電波懇談会 事務局

〒599-8531 大阪府堺市学園町1-1

大阪府立大学 大学院理学系研究科 物理科学専攻 宇宙物理学研究室

小川英夫

米倉覚則

宇電懇インターネットホームページ <http://www.nro.nao.ac.jp/udenkou/>